

千葉市図書館情報ネットワーク協議会は、千葉市内の館種を越えた図書館ネットワークを通じて、情報提供能力を強固にし、図書館サービスの向上を図ると共に、学術研究及び生涯学習の発展に寄与することを目的として、平成6年1月に設立されました。

このNetwork通信は、加盟館の情報交流並びに協議会の活動状況を加盟館利用者等にお知らせすることを目的とし、平成10年10月から発行しております。

平成25年度 第2回研修会の報告

千葉市生涯学習センターを会場として、本年度第2回研修会を開催しました。

今回は、地域資料の収集をテーマに、千葉市中央図書館から2件の事例報告と、千葉市中央図書館・生涯学習センターの施設見学を行いました。

当日は大雪注意報が発令され、6cmの積雪となった荒天にもかかわらず、17加盟館より25名の方に参加いただき、非常に有意義な研修会となりました。



◀ 千葉市生涯学習センター（中央図書館） ▶

日 時 平成26年2月14日（金曜日）
午後3時00分～5時45分
会 場 千葉市生涯学習センター 特別会議室

○事例報告

テーマ「千葉市図書館における地域・行政資料の収集と活用」

発表者：小林 正幸氏（中央図書館情報資料課主事）

テーマ「地域資料のデジタルアーカイブ化」

発表者：松崎 直也氏（中央図書館管理課主任主事）

○施設見学 千葉市中央図書館・生涯学習センター



◀ 古館 生雄 副会長 ▶



◀ 橋 高俊 千葉市中央図書館長 ▶

研修会報告 1

「千葉市図書館における地域・行政資料の収集と活用」

千葉経済大学総合図書館 藤本 重樹

平成 25 年度第 2 回研修会において、千葉市中央図書館情報資料課主事の小林正幸氏より『千葉市図書館における地域・行政資料の収集と活用』との題で、活動内容に関するお話をうかがいました。

千葉市図書館のサービス拠点は、中央・地区図書館、分館・分室、公民館図書室を含め計 35 館で、中心となっているのが中央図書館です。中央図書館の資料は永年保存で、地区図書館の保存年限を超えたものは全て中央図書館に移管する体制を取ることによって、資料の保存と公開を行っています。平成 24 年度の千葉市全体の地域・行政資料の所蔵冊数は 13 万冊で、そのうち中央図書館は 4 万 7 千冊と、市全体の 36%を所蔵しています。

収集においては、「千葉市図書館資料収集方針」とマニュアルを作成し規程に則って行われています。収集資料は、千葉市に関わる地理・歴史・人物・文化・自然・文学などの郷土資料、自治体で発行する行政資料、郷土誌・同人誌・ミニコミ誌・地域新聞などの逐次刊行物、その他として視聴覚資料と地形図・空中写真・電話帳などです。受入・整理は「地域資料分類表」を元に自館マークを作成し、レバーファイル、クリアファイル、ファイルボックスに収納しています。様々な工夫を取り入れ、独自の「地域・行政資料部門書架番号表」を作成して、図書と同じ管理方式を採用しています。これは、日本十進分類法にならっていますが、分類番号・内容は地域資料を管理しやすい別の方式を採用しています。資料の内容を幅広く分類し、さらに地域・地方区分も取り入れ、細かく管理しています。

館内には資料の一部を配架し、残りの資料は電動書庫を入れ、閉架書庫方式で保管しています。利用者が資料を検索して閲覧を希望する時は、地域・行政資料コーナー窓口に申し込むと、直ぐに資料を提供できる体制を採っています。

利便性を考慮して、検索しやすいよう目次や論文名などの内容細目を入力して公開しています。3 年前に国立国会図書館に登録し、レファレンス記録がインターネット上で閲覧できるようになっています。利用の多い資料は、1971 年以降の住宅地図、1947 年以降の空中写真、1999 年以降の私立高校の教科書と千葉日報新聞、朝日・毎日・読賣・東京・産経新聞の千葉版の切り抜きなどです。これは、地域・行政資料が活用されていることを示すもので、資料としての有益性をも証明するものです。

一般の利用者にも周知するために、2 階展示コーナーで 2 ヶ月毎に企画展示を開催し、さらに地域展示コーナーにも展示しています。運営については、中央および地区図書館の担当者からなる委員会を立ち上げ、毎月開催して選書会や地域行政資料の検討も行っています。

報告会終了後、中央図書館内の見学にも参加しました。感銘を受けたのは、日本で一番初めに公共図書館に導入された自動書庫です。現在は約 50 万冊収容されており、増設すればあと 30 万冊以上収納できます。一般利用者にとっては、館内で閲覧できる場所の書棚に配架されている図書しか見ることができませんが、バックヤードにその 3 倍近くの資料の保管スペースがあるのには驚きました。閲覧申請があれば、数分で自動的に取り出せるそうです。



◀ 千葉市中央図書館 小林氏 ▶

地域・行政資料の収集は、公共図書館でしかできない質の高いサービスとされます。大学図書館に携わる者として、利用者へ質の高いサービス提供を心掛けていますが、徹底した管理ときめ細かいサービスには足元にも及ばないことを痛感しました。また、最新設備の導入や人員数などにおいては、羨ましい限りでもあります。

市民へ知識と情報を提供し、生活向上に向けて貢献する公共図書館と、基礎知識と学部専門知識の習得と、社会人として必要になる知識を取り揃える大学図書館の機能的な違いはありますが、中央図書館に学ぶべき点が

多々あることを実感しました。同時に、大学図書館にない資料も豊富に取りそろえていますので、学生が研究、調査、卒論作成などで必要とする資料は、千葉市中央図書館に行くように勧めたいと思います。

今回の研修会に参加できたことは貴重な経験で、中央図書館の存在を再認識するきっかけとなり、感謝申し上げます。

研修会報告 2

「地域資料のデジタルアーカイブ化」

千葉県立中央図書館 若本 朋子

千葉市中央図書館で進めている地域資料のデジタルアーカイブ化について、お話をうかがいました。千葉市では、平成 24 年・25 年度の 2 か年で市の広報部門の倉庫に保管されていた各種の映像・冊子・写真類を対象にデジタルアーカイブ化を行い、図書館資料として市民に提供し、年度内にはホームページを立ち上げて広く公開していくとのことです。身近な地域の貴重な資料がこのような形で共有され、将来にわたって活用されていくことは、大変意義深いことだと思います。以下、当日お話いただいた内容を、簡単に報告させていただきます。

まず、そもそもの始まりは平成 24 年 9 月頃のこと。市の広報部門から倉庫に保管している過去の資料について図書館に連絡があり、何か活用できる資料があればと実際に資料を見に行ったことから今回の事業が動き出します。保管されていた資料は、映像・冊子・写真の 3 種類です。映像資料は昭和 30 年前後からの市の広報映画やニュース映画等でレーザーディスク 110 枚、冊子資料は「市民フォトちば」創刊号から終刊までの 150 冊、写真資料はイベントや市の風景などのスナップ写真のネガでおよそ 30 万枚と貴重な資料が大量に発見されました。倉庫といっても普通の市役所の一室で、資料保存の観点からも対応が急がれる状態だったそうです。



◀ 千葉市中央図書館 松崎氏 ▶

そこで、資料の適切な保存と活用のためデジタルアーカイブ化することを決定。10 月からすぐに準備に入り、12 月までにはプロポーザルによる業者選定まで完了、平成 24 年度と 25 年度の 2 か年でアーカイブ化作業が実施されました。市の通常予算とは別枠の使える予算があったというのも幸いしたそうですが、短期間のうちにアーカイブ化を実現できたのは、やはり職員の方々の熱意とご苦労によるところが大きかったのではないかと思います。

業者選定をプロポーザル方式にしたのは、単に価格で決めるのではなく、ある程度の質を担保しながら、専門業者のノウハウを活用してよりよいものをつくりたいとの意向からとのこと。採点は課長以下 4 人の管理職で行い、予定価格を開示し提案内容で競う、採点内容は非開示等のおおまかな方針を決め、最低限必要な事項を盛り込んで仕様書を作成したそうです。最終的には 3 社から提案書が提出され、検討の結果、全体に提案レベルが高く、メタデータの内容と管理手法が充実していた 1 社を選定します。各業者の三者三様の提案内容等、選定の裏話もお話いただき、プロポーザル方式の利点を十分に活かして選定された様子がかがわれました。

デジタル化対象となった資料は、映像資料がレーザーディスク 17 枚分、冊子 150 冊分、写真資料が約 3 万枚で、それぞれに保存用、公開用、メタデータを作成しており、映像資料に関しては、貸出用の DVD も一緒に作成しています。平成 26 年 4 月からは館内にパソコン端末が設置され、館内での閲覧環境も整う予定とのこと。データの納品は全て済んでおり、現在は公開に向けた準備を図書館側ですすめているとのことです。

当日会場で、昭和 29 年の広報映画「躍進する千葉市」や、昔の千葉駅の写真などを実際に見せていただきましたが、知っている土地の昔の風景を眺めるのはとても不思議な感慨があります。市民にとっても楽しく、また地域学習・研究等にも役に立つ非常に貴重な資料群だと思いました。今回デジタル化できなかった資料など新たな資料の追加も検討しているとのこと、今後の展開を楽しみにしています。

千葉市中央図書館・千葉市生涯学習センターを見学して

千葉県立保健医療大学仁戸名キャンパス図書館 伊藤 健司



◀ 中央図書館 1 階・企画展示コーナー ▶

平成 25 年度千葉市図書館情報ネットワーク協議会第 2 回研修会にて、会場となった千葉市中央図書館・千葉市生涯学習センターを見学しました。

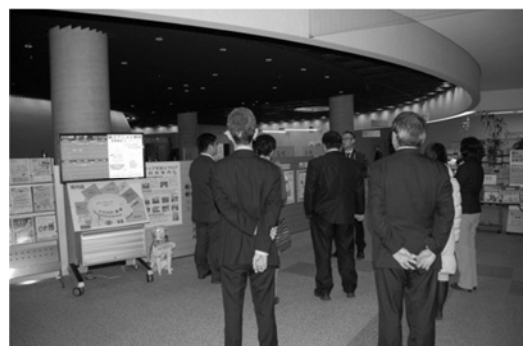
図書館 1F は、手前のエリアに文庫、新聞・雑誌、視聴覚資料などポピュラーな資料が並んでいます。その奥は、児童資料のエリアとなっていて、広いスペースには多くの資料が並び、椅子や机も子供用のものが備え付けられています。小さな図書館並みの規模との説明を受けましたが、その通り資料・設備とも非常に整っていました。

2F は主に一般書のフロアとなっています。資料は 5 つの主題部門・参考図書・雑誌に別れていて、フロアの中央に総合カウンターやレファレンスカウンターが設置されています。こちらの階は落ち着いた雰囲気になっており、じっくり読書をしたり、調べ物をしたりするのに適した空間となっていました。研究用の個室も 15 席用意されています。

あと、通常は立ち入ることができない自動書庫も見学ができました。約 50 万冊収容の巨大な書庫が立ち並び、機械が次々に資料を搬送していく様子は壮観でした。自動書庫の導入には、省スペースや省力化といった利点がありますが、このように規模が大きい館では特にメリットが大きいのではないかと感じました。

次に生涯学習センターを見せていただきました。B1F はメディア学習のフロアとなっており、マルチメディア作品を制作するための様々な機器やスタジオが用意されていて、作品を上映できる映像ホールも設けられていました。2F には生涯学習関係や行政資料の専門図書室があり、閲覧できるようになっています。図書館とはまた別の施設となり、資料の貸出はできないそうですが、専門書が多く揃えられています。

今回の見学では、改めて、とても充実した施設であるということを実感しました。図書館員として、また、利用者としてこれからも活用させていただければと思います。



◀ 生涯学習センター地下1階・マルチメディア体験ブース ▶

ネットワーク通信 No.42

2014 年 3 月 31 日

発行：千葉市図書館情報ネットワーク協議会

事務局：千葉市中央図書館内

〒260-0045 千葉市中央区弁天 3-7-7

TEL 043-287-3980 FAX 043-287-4074

◇千葉市図書館情報ネットワーク協議会ホームページ <http://www.ccal.jp/>